

情報提供・相談支援部会 報告

報告事項)

1 情報提供・相談支援部会 開催（議事録参照）資料 4-1

- ・第 26 回 WEB 会議 2023/6/14（金）17：30～19：00
- ・第 27 回 WEB 会議 2023/12/1（金）17：30～19：05

2 がん専門相談員研修について

● 両立支援に関する意見交換会 参加者 18 名

- ・主催：高知がん診療連携協議会 情報提供相談支援部会
- ・研修日：2023/9/13（水）15：00～16：10
- ・開催方法：オンライン開催
- ・報告事項：各医療機関より両立支援に関する取組み（内容：療養・就労両立支援指導料の算定状況・ニーズの抽出方法・支援の際に困ったこと・相談したいことなど）を報告。ハローワークや高知産業保健総合支援センターに活動報告頂き、両立支援に関する課題を共有した。療養・就労両立支援指導料の算定が各がん拠点病院でほとんど算定できていないことを受け、稼働年齢のがん患者数を把握し、両立支援に関する相談件数増加を目指すことを確認した。

● 2023 年度 第 1 回がん専門相談員研修について 参加者 16 名

- ・主催：高知がん診療連携協議会 情報提供相談支援部会
- ・研修日：2023/10/22（日）15：20～16：50
- ・研修テーマ：「MSW の視点から当事者との協働による政策づくりを考える
（事例 がん対策）～保健医療福祉を巡る動向/社会保障の変換～」
- ・講師：日本医療ソーシャルワーカー協会事務局長 山崎まどか氏
- ・開催方法：対面・オンラインのハイブリッド開催

● 2023 年度 第 2 回がん専門相談員研修について 開催予定

- ・主催：高知がん診療連携協議会 情報提供相談支援部会
- ・研修日：2024/2/17（土）14：00～16：00
- ・研修テーマ：「がん相談対応評価表を用いた事例検討会」
- ・講師：愛媛大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 塩見 美幸氏
- ・開催方法：集合

3 がんサロンについて

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、県内の多くのがんサ

ロンは各機関の判断で開催中止となった。そのような状況の中、がん相談センターこうちではサロン開催を継続し、県内で唯一患者同士が交流できる場所となっていた。2024 年 1 月より、高知赤十字病院、あき総合病院、高知大学医学部附属病院がサロン再開を決定している。

開催されているサロンの把握がし易いよう、高知県の公式ホームページや LINE アプリ上で情報発信が継続されている。

次年度は、高知県のピア・サポーター養成が開始される予定であり、本部会としても協力を行なっていく。

4 アウトリーチの取り組みについて

- オープンピアこうち図書館との合同イベントについて **資料 4-2**

9 月の「がん征圧月間」と 10 月の「高知県がんと向き合う月間」に合わせて、オープンピア高知図書館にてがんの講演会を行っていたが、2020 年度より新型コロナウイルス感染症の影響を受け、講演会は中止している。出張がん相談会は、今年度も引き続き開催曜日を分けて 3 回行った。部会内で相談員の派遣依頼を行ったところ、ほとんどの機関が参加し、相談員複数体制で相談対応できた。

- リレーフォーライフジャパン 2023in 高知について **資料 4-3**

10/14（土）、15（日）の 2 日間、出張がん相談ブースを出店した。また、各がん相談支援センターの参加者でリレーウォークに参加した。

5 2022 年度がん相談件数について **資料 4-4**

2019 年度より県内 7 カ所のがん相談窓口が同じがん相談の統計を取ることでなっている。2022 年度の詳細なデータに関しては、2023 年 5 月に集計し、6 月の部会で共有している。2021 年度総件数 4556 件に対し、2022 年度総件数 4728 件と微増している。

6 高知県の患者満足度調査の調査結果（がん相談支援センターの認知度低下）について

2021年度：46.7% 2023年度：36.6%と10%減少したことを受け、がん相談支援センターの認知度向上に向けた取組みが必要だと共有。次回の部会で各機関の取組み状況を共有し、各機関内で出来る取組みの改善を図る。また、県民へ広くがん相談支援センターを周知する広報などを検討していく。

7 次年度計画について

7-1 次年度部会開催

引き続きオンラインで年 3 回開催する。

第 29 回 2024/6/7（金）17:30～19:00

第 30 回 2024/12/6（金）17:30～19:00

第 31 回 2025/3/7（金）17:30～19:00

7-2 がん専門相談員研修

「がん相談対応評価表を用いた事例検討会」を含めた計 2 回のがん専門相談員研修会を実施予定。

7-3 リレーフォーライフジャパン 2024 in 高知

開催日未定。ブース出店、座談会を行なう予定。

7-4 オーテピア高知図書館がん相談会/図書展示

10 月中に、図書展示を実施予定。

10/6. 16. 26 の 3 日間、がん相談会を実施予定。

7-5 四国ブロックの活動

2024 年度の計画予定：情報支援研修を愛媛（秋冬）で開催予定

8 PDCA サイクルチェックリストの見直しについて 資料 4-5

情報提供・相談支援部会（以下、本部会という）では、がん相談支援センターの活動を、ロジックモデルに基づいた PDCA サイクルチェックリストを用いて評価し、活動の振り返りや次年度に向けた課題などを検討してきた。2023 年 11 月に開催された第 21 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会（以下、都道府県部会という）において、2022 年 8 月に改正された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」で求められているがん相談支援センターの活動を評価できるように、新たな PDCA サイクルチェックリスト（16 項目について評価）が提案された。また、その新たな PDCA サイクルチェックリストを用いて、今後は全国で統一して評価を行なうことがすぐに決議された。

上記を受け、2023 年 12 月に開催された本部会において、全国で提起された 16 項目を高知県でも評価すること、加えて高知県で引き続き評価が必要と思われる項目を追加して、本年度末評価から高知県版の新たな PDCA サイクルチェックリストで評価を行なうことを協議している。2024 年 3 月までに本部会で新たな PDCA サイクルチェックリストを確定し、本年度末評価から新たな PDCA サイクルチェックリストを使用する予定となっている。

依頼事項)

1 PDCA サイクルチェックリストへの「病院管理者等」の関与について **資料 4-6**

都道府県部会から示された評価項目には、主語が「病院管理者やがん相談支援センター管理者」（以下、管理者等）となっている項目がある。

（例）病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん患者・家族に対し、外来初診時から治療開始までを目処に、必ず一度はがん相談支援センターを案内するよう院内体制を整備している。

これは、整備指針でがん相談支援センターに求められる役割が、病院全体でバックアップしなければ果たせないものになってきたことから、管理者等の責任において、がん相談支援センターの活動を担保するように、あえて主語を管理者等とした評価項目となっている。

2023 年 12 月に開催された本部会において、各拠点病院等の状況を確認したところ、現時点で管理者等が直接評価を行なっている医療機関はなく、実務者が評価したものを管理者等に確認している、もしくは実務者のみで評価しているとした機関に分かれた。

そこで、本部会としては、以下のような対応を各拠点病院等に依頼する。

「各がん相談支援センター実務者が評価を行なった PDCA サイクルチェックリストについて、各機関の管理者等がその評価内容を確認し、達成できていない項目については管理者等の責任において改善の検討を行うこと」

（文責：情報提供・相談支援部会長 前田英武）

主催：高知大学(高知がん診療連携協議会がん薬物療法部会)

高知がん診療連携協議会 第2回 がん薬物療法部会 講演会

がん薬物療法におけるチーム医療

2024

2/14

WED

Start

19:00

会場：ちより街テラス

対象：がん薬物療法に関心のある医療従事者

前半

座長：溝渕 樹先生 高知赤十字病院 副院長

演題 「チーム医療が変えるがん薬物療法」

演者：辻 晃仁先生

香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授

演題 「がん薬物療法における看護の役割

～チームとしてのタスクシフト/シェアを考える～」

演者：濱田 麻美子先生

神戸市立医療センター中央市民病院

がん看護専門看護師

後半

ハイブリッド開催

参加
無料

web参加には
事前申込が必要です

■申込方法■

申込は①または②のいずれかの方法でお願いいたします。

(申込締切：2月6日)

①右記、QRコードを読み取り必要事項を入力してください。

②メールで申込：「214研修会参加申込」、本文に氏名、所属、職種、
参加形式(WEB・現地)を入力の上、メール (ir23@kochi-u.ac.jp) に送信してください。

WEBでご参加の方には、2月9日(金)までに、招待メールを送信いたします。



■問合せ先■

高知大学医学部・病院事務部

医事課 拠点病院管理係 岡村

TEL：088-888-0316

第 26 回 高知がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会 議事録

1. 日時：2023年6月14日（水）17：30～19：00
2. 開催方法：zoom を用いたオンライン会議（ホスト：高知大学医学部附属病院）
3. 出席者：高知医療センター
 幡多けんみん病院
 あき総合病院
 高知赤十字病院
 国立高知病院
 がん相談センターこうち
 高知県健康対策課
 高知大学医学部附属病院（事務局）
- 藤村氏、下司氏、西原氏（欠席）、山崎氏
 大家氏、沖野氏、上田氏
 竹田氏、横山氏
 古郡氏、溝渕氏（欠席）、谷内氏（欠席）
 長浦氏（欠席）
 川澤氏、加形氏、西森氏（欠席）、平井氏（欠席）、塩見氏（欠席）
 川島氏、島村氏
 前田、笹岡

4. 報告事項

(1) 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会 報告

日時) 2023/5/26 開催

●アピアランスケアについて

- 第4期がん対策推進基本計画に基づき、がん相談支援センターの業務にアピアランスケアが組み込まれている。四国がんセンターがアピアランス支援モデル事業に承認され、今後四国がんセンターにて研修会が開催された際には高知県の医療機関にも案内頂けるよう依頼済。情報入れば案内する。
- 大学病院では、オーテピア高知図書館で使用したアピアランスケアに関するパネル（横浜市のもの）を掲示しているが、各医療機関は何か広報しているか？→特にしていない。
- 都道府県によっては、ウィッグなどを購入する際の助成制度が設けられている。近隣では愛媛県の各市町村で「がん患者ウィッグ及び補整具等購入費助成事業」が実施されている。大学病院では、がん患者のウィッグなどに対して、理美容団体と協働して支援できないか働きかけていく予定。幡多地域ではどのように支援しているか。
 →幡多けんみん病院) 特に決まった連携先はなく、元々行かれている美容院に相談するよう声をかけている。

●PDCA チェックリストについて

- 資料 P25～28) 「項目が多く似たような項目はまとめ、評価の必要性が高い項目のみに絞って欲しい」「ほぼ全ての施設が達成できている項目は削除し、今後改善が必要な項目に絞って評価することで質の向上が図れるのではないか」「以前のように S 項目 A 項目など優先順位の項目をつけてほしい」などの意見があった。
- 厚生労働省の研究班にて、拠点病院機能のベンチマークができるようなロジックモデル構築の検

討が行われている。こちらは項目をしぼって重点的評価を行う予定のものである。地域性や病院機能によって個々の拠点病院の課題が異なることから、幅広い項目から都道府県ごとに課題を明らかにする必要がある。そのような理由から、2022年度 PDCA チェックリスト案から研究班のロジックモデルにそのまま移行するということにはならないと思われる。

(2) オーテピア高知図書館がん相談会/図書展示

がん相談日時) 10/7 (土) 9:30~16:00

10/17 (火) 9:30~16:00

10/27 (金) 9:30~16:00

- 図書展示については、今のところテーマは未定だが、今年9月に大学病院主催の AYA をテーマにした市民公開講座をオーテピア高知図書館にて開催予定。そこのコラボで AYA やアピアランスケア、妊孕性について図書展示を検討中。来週にオーテピア高知図書館との打合せを予定している。
- がん相談会については、昨年度、土日と平日を混ぜて複数日で開催した方が、一日平均の相談者数の増加が見られたので、今年度も土日と平日を混ぜた複数日で開催となった。
- 大学病院の前田/笹岡が参加予定だが、業務の範囲内で参加が可能な方がいたら参加していただきたい。

【参加をお願いしたい日時】

10/7 (土) AM () PM ()

10/17 (火) PM ()

10/27 (金) AM () PM () ※おって依頼の文書を出します。

(3) リレーフォーライフジャパン 2023 in 高知

日時) 10/14 (土) ~15 (日) ブース出店、座談会を行う予定

場所) 春野運動公園

座談会については昨年度から実施しており、主催者から今年度も実施してほしいとのお声あり。例年通り医大で対応するが、参加可能の方がいたら声かけしてほしい。

(4) 研修関連

- ・「対人援助専門職としての記録Ⅱ」 八木 亜希子先生
- ・「がん相談対応評価表」を用いた事例検討会
- ・両立支援に関する意見交換会
- ◇ 両立支援に関する意見交換会については、ハローワークについては話済み。さんぽセンターは来週相談予定。9月頃に1時間程度での開催を検討しているが、ハローワークから勤務時間内での開催はできないかと相談があったが、可能か？
→各機関より、勤務時間内で可能と。
- ◇ 高知がん診療連携協議会長名/院長名で要請を出すかたちで各機関へ依頼する。研修方法は zoom で行う。実際のところ、大学病院で両立支援加算が取得できたのは昨年度2件のみ。意

見交換会では各機関での取組みなどの発表もしていただきたい。

- ◇ 「対人援助専門職としての記録Ⅱ」「がん相談対応評価表」については、10月11月はがんイベントが多いため、12月1月の開催予定で調整していきたい。

(5) 2022年度がん相談件数報告（資料1）

今回、事務局へ提出した件数と県へ報告した件数でずれは生じていなかった。

全体的に相談件数は増加しており、大学病院の増加理由としては、各SWへ入力漏れをなくすように働きかけたことだと考えられる。また、大学病院の目標としては、来月広報誌で開業医向けにがん相談支援センターを紹介している。院外にもがん相談支援センターを周知してもらい、情報入手経路の「その他医療・福祉関係者（院外）」の件数の増加を目指したい。

(6) 2022年度PDCAサイクルチェックリスト報告（資料2）

全体的に評価の高い項目は増加している。しかし、コロナ禍ということもあり番号再掲（6）のがんサロンが開催できておらず、国立高知病院/がん相談センターこうち以外の医療機関は0となっている。また、番号19の「病院管理者およびがん相談支援センターの管理者は、相談員の継続的な学習の機会を保証し参加を促している」については、参加できていない機関があるが必須な項目であるため、業務として保証してもらって参加してもらいたい。難しい場合には、高知がん診療連携協議会へ研修会の参加について呼びかけをするため、事務局へ声をかけてほしい。

5. 協議事項

(1) 新PDCAサイクルチェックリストおよびロジックモデルに関する検討のためのWGの設置について（資料3）

WGの設置についてはできておらず申し訳なかったが、4（1）でもあったように、親会でも内容変更の動きであったので様子を見ていた。結果、内容について結論が出たわけではないので、県で作成していく必要がある。各機関で2022年版のPDCAチェックリストを1回つけてもらえないだろうか。その評価で、各機関とも出来ている評価（2もしくは3）であれば削除し、出来ていない評価（1）については項目を残すなど内容を高知県版に作成し、年度末に再評価していく。

今月中に作成し事務局へ提出してほしい。

→反対意見なし。別途事務局より各機関に依頼を行なう。

6. その他

(1) 県からの報告

- 「高知県がんピア・サポート養成事業」協力依頼の結果について（資料4）

- ・ 高知県がんピア・サポート養成事業への協力依頼については各機関とも「承諾」と回答。
- ・ 高知大学より意見あり。「偏った価値観を有するピアサポーターがかえって患者さんを混乱させるようなことが生じないように、今後運用を詰めていく段階で、そうしたリスクを回避できる手立てを講じていくことを要望致します。」

→高知県）高知大学からの意見に対し対応できるよう検討中。

- ・ 高知大学からの意見）「コロナ禍でサロン開催が出来ずサロンメンバーが変わっている。5月

のサロンに参加した方から、ピアサポーター研修に関心があるとの意見があった。まだ未確定な部分があると思うが、ピアサポーター養成についての案内資料があれば参加者に説明しやすいため、作成を検討してほしい。」

- ・高知大学からの質問) 年度内に養成研修の開催はあるのか？
→高知県) 年度内に第 1 回目を開催したいところだが、まだ目処が立っていない。
→高知大学) がん相談員自身が学べる機会を持ちたいと思っているため、県主催の研修が本年度開催されないようなら、研修の場を持たないか検討したい。

● 「高知県妊よう性温存治療費補助金交付要綱」について (資料 5)

- ・国の要綱改正にあたり県要綱の改正を行った。助成上限額等の制度に変わりはないが、様式等に一部改正あり。
 - 高知県妊よう性温存治療費補助金申請書 (妊よう性温存治療分) について、添付資料に胚凍結の場合に婚姻関係を確認することができる書類の追加
 - 高知県妊よう性温存治療費補助金申請に係る領収金額内訳証明書 (妊よう性温存治療実施医療関係の連携機関) について、昨年、高知県と他県の医療機関との連携を要したケースがあり、その際には厚労省と相談しながら支援していった経緯あり、一連の治療の一部を実施医療機関の連携医療機関で実施した場合の領収金額内訳証明書について、連携医療機関において記載する様式を整備
 - 高知県妊よう性温存治療費補助金申請に係る証明書 (原疾患治療実施医療機関) について、原疾患に対する治療のうち、対象になる治療法をしっかりと明記
 - 高知県妊よう性温存治療費補助金申請書 (温存後生殖補助医療分) の注意事項の内容について、夫婦の両者が同事業に基づき治療を受けた場合、どちらか一方が助成対象となること、助成実績情報の共有を明記したことを追加
- ・先日厚労省より、再度国要綱を改正すると連絡があり、正式に決定すれば報告する。

(2) 事例共有

標準治療を終了し、県外医療機関で自費診療での高額な医療費や個室代の支払をしたケースについて共有。ケースを踏まえ、各機関での相談内容について共有を行った。

- ・高知大学：自費診療後のフォローは責任が負えないという理由で受入れを断っているが、断られた患者の行き場がないのでは？と感じる。今後フォローをどのようにしていくのか検討が必要。
- ・日赤：自費診療について治療の効果が無いと患者家族に直接言う医師と、患者家族が受けたいのであれば紹介状を準備する医師など対応は医師個人で異なる。様々なクリニックが治療法の紹介を HP で行っているが、国の方でネットの規制などはないのだろうか？→ (前田より) 治るとは言い切っておらず、ギリギリ規制されない文言を使用し規制をくぐりぬけているのではないだろうか。
- ・あき総合病院：自費診療を終えて当院に受診されている方はいる。また、自費診療を検討した

けど現実的ではないととどまった患者さんの話を聞いたことがある。

- ・ 幡多けんみん病院：幡多地域の医療機関として受け皿としての検討が必要だと感じる。
- ・ がん相談センターこうち：県内で自費診療を行なっているクリニックについての相談が多く、止めきれない部分あり。また、関東の地域拠点にセカンドオピニオンで行った際に、自費で150万円の治験を勧められた方もいて、どうお答えしたらよいのか迷ったケースあり。
- ・ 県：科学的根拠に基づいた適正な情報をお伝えするよう注意を払っているが、実際に自費診療での相談があった時にどのようなお答えができるのか考えさせられた。

以前の部会で「がん相談支援センターで用いる情報提供資材の承認グレードの管理」について共有し、大学病院のがん相談支援センターの情報提供資材一覧(書籍やサイト)を共有したが、パンフレットについても検討が必要。各機関で使っている資材などあれば教えて欲しい。

→がん相談センターこうち) キャンサーネットの肺がんの冊子にある治療法が古いものがあり、現在提供されている資材でも最新でない部分もあるので注意が必要だと感じた。

次回の予定 2023/12/1 (金) 17:30～

第 27 回 高知がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会 議事録

1. 日時：2023 年 12 月 1 日（金）17：30～19：05
2. 開催方法：zoom を用いたオンライン会議（ホスト：高知大学医学部附属病院）

出席者：高知医療センター	藤村氏、下司氏、西原氏、山崎氏
幡多けんみん病院	大家氏、沖野氏、上田氏
あき総合病院	竹田氏、横山氏
高知赤十字病院	古郡氏、溝渕氏、谷内氏
国立高知病院	長浦氏（欠席）
がん相談センターこうち	川澤氏、加形氏、西森氏(欠席)、平井氏(欠席)、 塩見氏(欠席)
高知県健康対策課	川島氏、島村氏
高知大学医学部附属病院（事務局）	前田、笹岡

3. 報告事項

(1) オーテピア高知図書館がん相談会/図書展示 報告（資料 1）

各機関の相談員ががん相談会に参加し、対応された相談に関しては各機関の実績として相談件数に計上頂く。記入シートは 1 ヶ月の保護期間後に廃棄を行なう。
来年度は、2024 年 10 月 6 日 16 日 26 日に開催予定。

(2) リレーフォーライフジャパン 2023 in 高知 報告（資料 2）

出店方法をどうするかという検討事項はあるが、とりあえず来年も例年通り相談会としてブース出店を行う予定。参加者が増えるよう親会でも参加を促す。

(3) 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会 報告

日時) 2023/11/24 開催

- PDCA 実施状況チェックリストについて、アンケートと前回の部会を踏まえ、項目数の絞り込みとロジックモデルとの整合性を重視して、チェックリストの以下の項目について修正され、新たに「PDCA 実施状況チェックリスト 2023 年修正版」が公表された。
以下、修正された点。
 - ・項目数が多い（61 項目）→統合・削除し 16 項目になった
 - ・列の順序を「施策→プロセス→測定指標→構造→アウトカム」に変更
 - ・プロセス部分にある「必要な条件・状態」の文章が長くわかりにくい→評価項目に共通

する要素を検討し、キーワードに置き換えた

- ・タテヨコ共に長い表なので、印刷すると文字が小さくなる→プロセス部分のみを抜き出し「管理者項目」「相談員項目」シートを作成した

PDCA チェックリストの重要項目を、藤班のロジックモデルに反映させるにあたって、重要項目はほぼ含まれていたが「★34：相談に活用する情報や情報源の評価」は含まれていなかったため新たに追記された。

今後、部会アンケートの形で定期的に、全拠点病院を対象としたチェックリスト項目評価入力と報告が必要となる。

「PDCA 実施状況チェックリスト 2023 年修正版」をもとに、都道府県ごとに独自項目を追加した PDCA チェックリストを作成してもらって構わない。

4. 協議事項

(1) PDCA サイクルチェックリストについて（資料 3）

- 報告（3）にあったように、「PDCA チェックリスト 2023 年度版（16 項目）」が作成されたが、当部会としては、16 項目と 41 項目（7 月にメールで提案・決定した 41 項目）を照らし合わせ、高知県版の PDCA チェックリストを作成し、評価したいと考えている。

事務局で項目を整理した上で、高知県版 PDCA チェックリストを作成し、次回の部会までに提案決定し、年度末の評価を行いたい。

高知県版として 41 項目を評価するとし 20 項目削除していたが、削除した項目の中には今回の 2023 年版の 16 項目が含まれており、提出する時だけその項目も評価するのか、常に評価するのか検討したい。

→事務局提案で、2023 年版の 16 項目 + 高知県版として残していた項目を評価することとし、12 月中に PDCA チェックリスト案をメール審議にかけることとなった。

- 管理者項目について

管理者が評価する 10 項目について、どのように評価していくか。

→そもそも各施設はどのように評価しているか？

医療センター：相談員が評価し、センター長へ報告しているが、決裁へは回していない。

幡多けんみん：相談員が評価し、センター長が不在のため報告しておらず、決裁へも回していない。

あき：相談員が評価し、決裁へ。病院長へ報告している。

日赤：相談員が評価するが決裁へは回していない。

こうち：センターで評価し、県へ提出。

医大：相談員が評価し、決裁へ。前田 SW が副センター長なので、センター長へ回すことまでは行っていない。

→今後、管理者項目をどのように評価していくか。

上記のように、相談員が評価したのち管理者へ報告している施設が多数だが、管理者に報告していない施設もある。PDCA チェックリスト自体ががん相談支援センターだけでは達成しづらい内容になってきているため、相談員が評価したとしても、管理者が把握できる体制を構築する必要がある。親会にて病院長や管理者へ働きかけてもよいか。

→（この場では決まらなかったため）一旦、親会への提案する内容について文書に起こして部会へ送付し、メール審議にかけることとなった。

➤ 2023 年度高知県版 PDCA サイクルチェックリスト提出〆切

提出期限：2024 年 4 月 19 日（金）

がん相談件数の提出も同じく、4/19 提出。

→各機関承認。

(2) 研修関連

2023/9/13 両立支援に関する意見交換会 実施

2023/10/22 第 1 回がん相談員研修 実施

➤ 「がん相談対応評価表」を用いた事例検討会（事務局より）

2024 年 2 月中に当院の事例を元に評価表を用いた研修会を行う予定。

→愛媛大学医学部附属病院 がん看護専門看護師の塩見氏へ講師を依頼済み。

2/10 もしくは 2/17 で開催したい。

この研修をやってみて、今後どのように事例検討会を進めていくか協議したい。

→2/10 はあき総合病院の参加が難しいとのことで、2/17 で開催できないか講師へ相談する。講師の都合が合わなければ 2/10 で開催する。研修時間は 2 時間程度。開催方法は今後検討。

愛媛大学病院でも録音し、評価表を用いた事例検討には課題があるとのこと。なので、どのように事例検討を運用していくか、講師とともに協議できればと考える。

事例に関しては、録音した音声をもとに事例検討するのが望ましいが、録音まで至っていないため、逐語録で作成したものを使用した事例検討を行いたい。そもそも録音での事例は事前に提示しにくいというデメリットもあるため、録音にこだわらず、逐語録などを用いて今後も事例検討を継続したいと考えている。

相談の質向上のために、各施設内で事例検討できればいいが、どちらの施設も単独での開催は困難な状況のため、事例検討の場を継続して持てるように引き続き部会で実施を検討したいと考える。

事例検討会では、評価表の付け方の講義を 30 分程度してもらい、その場で評価表をつけ、グループワークし、事例提供者へフィードバックするという内容を想定している。

→各機関より承認され、実施に向け準備を進めることとなった。

(3) 「高知県がんピア・サポート養成事業」に関連した研修について（県より）

→今年度中にごん相談員向けの研修会を行いたい。この研修会の位置づけは、実働前にそれぞれがより具体的にピア・サポート養成のイメージを持つための、事前準備のための研修。講師として、厚労省が委託している日本サイコオンコロジー学会の方へ相談中。この研修で、ピア・サポートについて基礎的なことから学び、理解を深めた上で「高知県がんピア・サポート養成事業」を走らせていきたい。

→参加者から質問があり。

医療センター 藤村氏)

この研修の目的は？

県 川島氏)

養成事業は行政だけではできないので、研修を通じて各施設の協力を得たいと思っている。

前田部会長)

ピア・サポーターの候補者を推薦する立場としても、どのような研修となるのか知っておく必要があると思われる。この研修は、まずはがん相談員の自分たちの学ぶ機会という位置づけ。

医療センター 藤村氏)

前回の部会で質問した「ピア・サポーターの保証についての情報」についての報告はないのか

県 川島氏)

現状他県の状況について調べられておらず、今後も引き続き確認していく。

前田部会長)

研修会で、候補者の役割や安全性についてなど、部会で出た疑問点や不安な点なども講義内容に盛り込んでもらうに、日本サイコオンコロジー学会に依頼して欲しい。各機関が参加しやすいように、必要あれば部会も共催に入ることを考えたい。

→質疑を歴て、県主導で開催準備を進めることとなった。

研修会は年度内に実施予定。開催時間については、平日の 17 時以降の希望が多数であった。開催時期は 1 月もしくは 2 月で調整。研修時間は 1 時間程度を予定。

(4) 高知県の患者満足度調査の調査結果（がん相談支援センターの認知度低下）について

- 整備指針で求められている各施設の取組み状況について年度末に共有

➤ 今後の相談支援体制や窓口の認知度向上を検討

→令和3年度：46.7% 令和5年度：36.6% 10%減少

認知度低下の原因として考えられるのは、高知大学が令和3年度にまったく回答しておらず、今回の調査では逆に多数の回答を行なったことが原因と考えられる。先日行われた高知県がん対策推進協議会でも認知度低下の話題が上がり、認知度向上に向けた取組みが必要だと共有された。

高知大学の取組みとしては、予約票の裏にがん相談支援センターの案内を印字し全患者に渡したり、院内にポスターの設置数を増やしたりと対応しているが、現状効果は感じられず、まだ出来ることがないかを模索してる状況。

今年の「がん相談会」での特徴として、電話相談が多かったことが挙げられる。この電話で相談された方々は、普段からがん相談支援センターへ電話相談できると知らないのではないかと考えられる。そこから、「あかるいまち」などの広報誌を使って、がん相談支援センターの広告を出すことが出来ないか検討している。

整備指針の「病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん患者・家族に対し、外来初診時から治療開始までを目処に、必ず一度はがん相談支援センターを案内するよう院内体制を整備している」という項目について、次期改定では地域拠点病院にも必要項目となってくる想定のため、認知度改善の取組みや広報の仕方など案があれば共有したい。一旦持ち帰って各施設で検討していただき、次回の部会内で共有し、部会として取り組めることがあれば親会にも諮りつつ、行動を起こしていきたいと考えている。

→事務局より各機関に取り組み状況の照会をかけ、3月の部会で再検討を行なうこととなった。

5. その他

高知大学)

コータック療法に関する問い合わせが増えている。本年度に新たなメディアへの露出があった模様。現状、コータック療法は保険適用ではなく高知大学は関与していない。対応に苦慮することがあれば共有して対応を検討したい。

次回の予定 2024/3/1 (金) 17:30～



■オーテピア高知図書館がん相談会 2023 活動報告

1. がん図書展示

① 図書展示テーマ：「AYA世代 がんのコト」

日 時：2023年10月1日（日）～2023年10月29日（日）

場 所：オーテピア高知図書館 2階展示の本棚

概 要：AYA世代のがんをテーマにした書籍（闘病記や食事、アピアランスケアなど）をオーテピア高知図書館より準備いただき展示。当院からは、「就学と就労について」「アピアランスケア」「妊よう性について」など、AYA世代にまつわる事柄をテーマごとにまとめ、情報提供を行った。



2. がん相談会

日時：2022年10月7日、17日、27日 9:30～16:00

場所：オーテピア高知図書館 3階 グループ室4・対面音訳室5

参加：高知大学医学部附属病院（前田・笹岡）

高知医療センター（藤村・下司・西原）

高知赤十字病院（古郡・溝渕）

高知県立あき総合病院（竹田・横山）





高知県立幡多けんみん病院（沖野）
がん相談センターこうち（加形）
高知産業保健総合支援センター（豊田・小松・浜田）

当番：10/7（土） 9：30～16：00	高知大学：前田
5件 9：30～13：00	医療センター：藤村、幡多けんみん：沖野
12：00～16：00	医療センター：西原
9：30～12：00	産保センター：豊田（産業保健専門職）
13：00～16：00	産保センター：浜田（社労士）
10/17（火） 9：30～16：00	高知大学：笹岡
7件 9：30～13：00	高知大学：前田
2：00～16：00	あき：横山、こうち：加形
9：30～12：00	産保センター：浜田（社労士）
13：00～16：00	産保センター：小松（保健師）
10/27（金） 9：30～13：00	高知大学：前田
3件 9：30～13：00	医療センター：下司
12：00～16：00	日赤：古郡・溝渕、あき：竹田
9：30～12：00	産保センター：浜田（社労士）
13：00～15：30	産保センター：小松（保健師）
相談件数：15件（2022度：18件）	

オーテピア高知図書館 3階の健康・安心・防災スペースにあるグループ室にデスクを設け、予約不要として上記日時において出張がん相談を行った。コロナの感染状況を鑑み、がん講演会は本年も中止とし、がん相談会の開催日を昨年引き続き3日間設け対応した。各機関より相談員を派遣していただき、グループ室4・対面音訳室5と2部屋にて同時に相談を受けることができ、相談者をお待たせすることなく行うことができた。相談内容は、患者さん自身からの相談（治療や仕事のこと、がん治療のこと、障害年金などに関すること）や家族からの相談（家族ががんで心配、患者との関わり方、通院先など）であった。相談件数は15件で、うち4件が電話での相談であった。





所感) 昨年実績には届かなかったが、がん相談会では 15 件の相談があった。新聞やチラシなどを見て相談に来られた方や、たまたま館内におられて館内放送を聞いて相談に来られた方が多かった。そのため、今後は相談室が空いている際には、積極的に館内放送を流して案内していく方向となった。また、今年度は電話での相談が多く、電話で相談しさらに聞きたいこと等あれば次回の相談会に直接伺いたいという方や患者は体調不良のため直接出向くことができないことから電話で相談したという方であった。電話相談はオーテピア高知図書館でがん相談会をする意義とは異なるため、チラシ等で電話での相談可能と謳うことはしないが、相談員が対応できる場合には電話にて相談を受けることも引き続き行っていく予定。来年度も引き続き、図書展示とがん相談会を実施し、がん相談会も平日・土日など含めた日にちで開催する。学校終わりや仕事終わりの時間帯に図書館へ来られる方も多いとの声もあり、夕方にも実施できないか検討する余地がある。

報告者：高知大学医学部附属病院 がん相談支援センター 前田 笹岡

■リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 高知 参加報告

日時：2023/10/14（土）12:00～10/15（日）12:00

14 日（土） ①12：00～開会挨拶

②12：20～サバイバズラップ～2周目はじめくらいまで

③14：00～15：30 講演後、がん相談支援センターとともに参加者と対話

④18：00～ルミナリエセレモニー エンプティテーブル

⑤随時 コンサートの様子など

15 日（日） ⑥11：30～クロージングセレモニー、ファイナルラップ

リレーウォーク表彰式

場所：高知県立春野総合運動公園 運動広場 D

参加：高知大学医学部附属病院（前田・笹岡）

高知医療センター（藤村・下司・西原）

高知赤十字病院（古郡）

※当方が把握できていない参加者がおられましたら申し訳ありません

リレー・フォー・ライフとは)

リレー・フォー・ライフ（Relay For Life : RFL）は、地域全体でがんと向き合い、がんで悩むことのない社会を実現するためのチャリティー活動です。がん患者（サバイバー）やその家族、支援者（ケアギバー）などが公園やグラウンドを会場に、交代で仲間とタスキをつなぎ、がん征圧を願い歩きます。寄せられた寄付金は日本対がん協会を通じて、がん医療の発展や患者支援、検診の啓発に役立てられます。高知では2008年に初開催し、今年は16回目の開催となります。がんをもっと知ってもらおうというメッセージを込めて、無理せず楽しく歩いていきます。

（リレー・フォー・ライフ・ジャパン高知ホームページより抜粋）





- 昨年度に引き続き、高知がん診療拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会として出張がん相談ブースを出店した。初日はあいにくの雨であったが、小雨ですみ、気温もそれほど上がらず、参加者にとってはリレーウォークしやすい天気であった。
ブースには幟や看板を設置し、高知医療センター：藤村氏、下司氏とともに旗を持ってリレーウォークした。また、高知医療センターの西原氏、高知赤十字病院の古郡氏は各所属機関の参加者としてリレーフォーライフに参加された。
- 初日には講演①②の後に演者、参加者とともにがんに関することの質疑応答の時間が設けられ、がん相談支援センターも参加した。がんの栄養に関すること、がん相談支援センターへの相談内容、医療費、副作用などについて質問がありディスカッションした。

所感)

ブース出店やリレーへの参加人数が少なく、また参加されるほとんどの方がブース出店の方々ばかりで一般の方の参加がほとんどないため、個別相談は 1 件であった。一般の方からの参加があればもう少し相談件数は増えると思われるが、今後、相談会というスタイルでのブース出店が適切なのか検討していく必要があると考える。

報告者：高知大学医学部附属病院 がん相談支援センター 前田/笹岡

令和4年度(2022年度) 高知県がん相談件数集計

令和5年6月2日報告
高知県 情報提供・相談支援部会

※学会発表等に使用する際は、高知がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会に許可を得ること

相談件数)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
相談件数	1059	807	1242	370	682	271	297	4728

(県庁への報告数) ※全機関が、県庁への報告数とズレなし

所要時間)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	中央値
最大値(分)	180	175	120	120	116	95	190	120
最小値(分)	5	5	5	5	3	10	5	5
中央値	35	37	50	32.5	26	47.5	51	37

対応場所)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
院内	1033	807	1242	369	681	271	293	4696
院外	26	0	0	1	1	0	4	32
合計	1059	807	1242	370	682	271	297	4728

対応方法)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
対面相談	598	587	682	294	492	216	123	2992
電話相談	455	215	508	76	190	54	172	1670
FAX相談	0	3	0	0	0	1	0	4
E-mail相談	6	2	0	0	0	0	2	10
その他	0	0	52	0	0	0	0	52
合計	1059	807	1242	370	682	271	297	4728

対応者)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
専従(8割以上)	58	268	356	0	485	0	295	1462
専任(5割以上8割未満)	192	168	152	0	0	271	0	783
兼任(5割未満)	809	371	734	370	197	0	0	2481
合計	1059	807	1242	370	682	271	295	4726

相談者)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
患者のみ	287	232	274	142	183	82	152	1352
患者とその付添い	369	311	237	104	315	130	7	1473
患者以外の方のみ	401	258	729	124	184	59	131	1886
不明	2	5	2	0	0	0	7	16
合計	1059	806	1242	370	682	271	297	4727

利用回数)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
初めて	743	582	236	103	277	162	136	2239
2回目以上	309	217	1005	249	404	107	161	2452
不明	7	6	1	18	1	1	0	34
合計	1059	805	1242	370	682	270	297	4725

担当医からの紹介)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
あり	566	370	125	203	567	235	0	2066
なし	493	437	1117	167	112	36	297	2659
合計	1059	807	1242	370	679	271	297	4725

情報入手経路)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
担当医	525	309	111	189	506	232	0	1872
その他医療・福祉関係者	401	253	1127	229	108	26	19	2163
その他医療・福祉関係者(院内)	236	208	0	919	97	9	0	1469
その他医療・福祉関係者(院外)	164	16	0	224	11	17	19	451
家族・友人・知人	16	8	1	2	2	4	67	100
同病者やその家族・患者会	0	1	0	0	0	0	92	93
パンフレット・紹介カード	5	6	0	0	1	0	10	22
インターネット	69	19	17	0	4	0	4	113
院内掲示	35	10	4	1	4	0	3	57
不明	46	193	9	21	19	10	103	401
その他	26	14	0	0	1	0	1	42
合計	1123	813	1269	442	645	272	299	4863

患者以外主たる相談者カテゴリー)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
家族・親戚	514	568	337	177	440	211	86	2333
友人・知人	4	9	2	1	13	1	38	68
一般	0	0	0	0	0	0	0	0
医療関係者(院内)	42	8	234	4	15	0	0	303
医療関係者(院外)	154	20	258	54	27	1	8	522
不明	0	6	1	1	71	58	6	143
その他	3	0	61	0	0	0	0	64
合計	717	611	893	237	566	271	138	3433

患者以外たる相談者年齢)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
20歳未満	1	0	0	0	0	1	0	2
20歳代	4	1	0	1	0	1	1	8
30歳代	32	4	2	5	0	10	1	54
40歳代	45	3	12	16	5	45	17	143
50歳代	48	8	6	21	7	46	8	144
60歳代	27	10	6	56	2	30	8	139
70歳代	47	9	8	25	2	66	7	164
80歳以上	12	6	1	20	0	14	1	54
不明	497	558	843	88	554	57	102	2699
合計	713	599	878	232	570	270	145	3407

患者以外たる相談者性別)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
男	210	157	227	57	144	60	28	883
女	487	414	633	173	349	148	117	2321
不明	24	30	23	4	77	58	0	216
合計	721	601	883	234	570	266	145	3420

患者本人年齢)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
0-14歳	9	1	0	0	0	0	0	10
15-19歳	8	0	0	0	0	0	0	8
20歳未満	20	2	0	0	0	0	0	22
20歳代	15	1	1	0	1	0	7	25
30歳代	15	7	16	0	7	4	5	54
40歳代	51	44	51	0	43	9	28	226
50歳代	136	79	80	37	63	33	29	457
60歳代	204	164	226	78	149	35	49	905
70歳代	358	277	487	128	196	108	52	1606
80歳以上	228	170	370	125	204	81	20	1198
不明	31	62	11	2	18	1	107	232
合計	1058	806	1242	370	681	271	297	4743

患者本人性別)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
男	549	452	857	253	276	152	85	2624
女	504	348	384	116	402	119	194	2067
不明	6	7	1	1	2	0	18	35
合計	1059	807	1242	370	680	271	297	4726

患者本人の受診状況)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
自施設入院中	428	80	607	205	165	84	0	1569
自施設通院中	412	601	578	129	492	177	0	2389
他施設入院中	120	13	32	14	7	3	30	219
他施設通院中	83	100	12	19	14	7	224	459
受診医療機関なし	2	4	0	2	0	0	15	23
不明	7	2	2	1	2	0	28	42
その他	7	5	11	0	2	0	0	25
合計	1059	805	1242	370	682	271	297	4726

現在の治療状況)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
診断なし(精査中含む)	14	11	0	19	6	2	29	81
治療前(診断後精査中含む)	139	156	129	18	226	26	26	720
治療中	721	504	670	87	235	56	118	2391
治療後(概ね治療3ヵ月未満)	62	72	27	64	93	62	9	389
経過観察中(概ね治療3ヵ月以降)	64	41	35	6	33	0	53	232
緩和ケアのみ	48	16	362	175	82	124	3	810
死亡	4	1	8	1	1	0	15	30
不明	6	5	6	0	5	1	44	67
その他	1	1	5	0	0	0	0	7
合計	1059	807	1242	370	681	271	297	4727

がんの状況)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
初発	719	333	555	66	277	72	106	2128
再発・転移	290	434	606	272	367	197	105	2271
不明	44	36	53	32	37	2	69	273
その他	6	2	28	0	0	0	17	53
合計	1059	805	1242	370	681	271	297	4725

がん部位)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
眼・脳・神経	176	13	41	25	7	0	11	273
耳鼻咽喉・口腔	65	35	34	8	17	3	17	179
胃	51	79	232	21	35	10	12	440
食道	37	25	103	29	5	1	9	209
大腸	92	175	293	54	68	27	23	732
小腸・肛門	6	8	39	5	0	0	0	58
肝・胆	82	86	344	65	42	5	9	633
膵	28	116	121	24	95	6	5	395
肺	150	104	226	147	102	118	58	905
縦隔・心臓	4	1	18	2	5	1	0	31
乳房	103	49	94	3	186	43	55	533
卵巣・膣・外陰部	45	32	33	8	28	6	18	170
子宮	53	16	24	4	13	6	8	124
精巣	0	0	0	0	0	1	2	3
前立腺	52	46	80	31	25	10	3	247
腎・尿管・膀胱	91	30	91	41	19	20	16	308
甲状腺	6	8	2	2	5	2	8	33
副腎	2	4	11	0	0	0	0	17
血液・リンパ	111	74	180	37	29	3	13	447
うち)成人T細胞白血病(ATL)	4	1	0	1	4	0	0	10
うち)その他	91	58	9	16	11	3	0	188
皮膚	21	4	0	5	2	0	8	40
骨・軟部組織	36	18	171	34	1	0	19	279
後腹膜・腹膜	9	13	95	7	8	3	4	139
中皮腫	3	1	0	0	0	3	0	7
原発不明	4	4	0	7	8	3	1	27
希少がん	6	6	5	2	1	0	4	24
診断なし	4	3	0	1	0	0	31	39
不明	3	19	4	5	7	0	42	80
その他	13	5	9	0	1	0	11	39
合計	1253	974	2250	567	709	271	387	6411

相談内容)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
1.がんの治療	141	64	90	73	99	75	75	617
01-01.手術	34	21	18	6	24	26	26	155
01-02.放射線治療	18	11	6	15	18	1	10	79
01-03.薬物療法	58	36	57	40	40	15	37	283
01-04.免疫療法	12	5	1	2	0	0	2	22
01-05.ゲノム医療	10	7	0	0	22	1	5	45
01-99.その他	21	11	2	15	4	34	0	87
2.がんの検査	22	13	6	6	10	0	13	70
3.症状・副作用・後遺症	53	61	15	109	129	0	169	536
03-01.妊孕性、生殖機能	3	0	0	0	0	0	0	3
03-02.アピアランス	3	16	1	3	3	2	10	38
03-03.晩期合併症	5	1	0	5	1	3	0	15
03-04.長期フォローアップ	6	1	0	84	0	0	0	91
03-99.その他	10	7	0	0	22	1	5	45
4.セカンドオピニオン(一般)	19	23	18	1	4	0	22	87
5.セカンドオピニオン(受入)	6	56	0	0	1	0	0	63
6.セカンドオピニオン(他へ紹介)	28	25	36	0	27	0	0	116
7.治療実績	2	1	1	0	0	0	2	6
8.臨床試験・先進医療	7	1	0	0	2	0	0	10
9.受診方法・入院	121	118	116	49	64	0	2	470
10.転院	272	57	190	37	68	0	16	640
11.医療機関の紹介	98	66	8	23	40	0	13	248
12.がん予防・検診	2	3	0	0	0	0	5	10
13.在宅医療	130	50	266	111	106	0	12	675
14.ホスピス・緩和ケア	175	293	6	41	280	0	19	814
15.食事・服薬・入院・運動・外出など	21	17	172	74	90	0	16	390
16.介護・看護・養育	97	35	84	125	34	0	13	388
16-01.介護	51	32	54	70	11	0	7	225
16-02.看護	48	4	37	39	2	0	2	132
16-03.養育	0	0	0	10	22	0	0	32
17.社会生活(就労・仕事・就学・学業)	40	12	5	5	61	0	21	144
17-01.就労	21	1	3	1	9	0	7	42
17-02.治療と仕事の両立	15	10	3	2	51	0	13	94
17-03.就学・就園	1	0	0	0	0	0	0	1
17-04.学業・学校生活	3	0	1	0	0	0	0	4
18.医療費・生活費・社会保障制度	299	242	505	81	178	0	13	1318
18-01.介護保険	98	40	285	27	31	0	0	481
18-02.傷病手当	22	15	0	0	21	0	1	59
18-03.その他	150	196	99	4	126	0	1	576
19.補完代替療法	4	2	0	0	8	0	2	16
20.生きがい・価値観	8	6	15	191	136	0	58	414
21.不安・精神的苦痛	80	116	24	162	403	0	170	955
22.告知	6	0	2	10	11	0	2	31
23.医療者との関係・コミュニケーション	40	26	48	27	79	0	43	263
24.患者-家族間の関係・コミュニケーション	33	16	52	64	120	0	44	329
25.友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	4	0	4	1	7	0	34	50

26.患者会・家族会(ピア情報)	3	2	0	0	0	0	29	34
27.グリーンケア	1	1	0	7	0	0	11	20
88.不明	1	0	0	0	0	0	0	1
99.その他	138	29	222	1	9	0	18	417
	1851	1335	1885	1198	1966	75	822	9132

対応内容)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
1.傾聴・語りの促進・支持的な対応	465	541	461	314	595	46	284	2706
2.助言・提案	180	531	137	165	556	52	161	1782
3.情報提供	702	654	726	214	523	159	65	3043
4.自施設受診の説明	34	53	0	46	13	1	0	147
5.他施設受診の説明	77	66	5	25	182	0	0	355
6.自施設他部門への連携	197	53	741	23	478	4	0	1496
7.他施設への連携	537	221	542	65	259	9	0	1633
8.ピアサポート機能紹介	1	0	0	0	2	0	0	3
81.苦情・要望への対応	1	1	2	5	0	0	12	21
88.判断不明	2	2	0	0	0	0	0	4
99.その他	6	1	14	0	1	0	1	23
合計	2202	2123	2628	857	2609	271	523	11213

相談者からの反応)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
1よい反応だった	740	235	163	282	224	266	252	2162
2.特に反応はなかった	210	9	966	26	10	0	38	1259
3.悪い反応があった	1	4	6	1	1	1	0	14
88.判断不明	105	558	107	61	442	0	6	1279
99.その他	3	1	0	0	0	0	1	5
合計	1059	807	1242	370	677	267	297	4719

加算の有無)

	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	幡多けんみん病院	あき総合病院	高知赤十字病院	国立病院機構高知病院	がん相談センターこうち	合計
退院支援加算 あり	219	20	219	4	0	0	0	462
退院支援加算 なし	405	517	569	236	196	0	0	1923
その他の診療報酬の	42	0	7	0	1	18	0	68
その他の診療報酬の	420	536	616	235	195	2	0	2004
合計	1086	1073	1411	475	392	20	0	4457

がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリスト(高知県 2023年度版) 2023/12.13改訂

機関名: 評価日: 資料4-5

施策 基準指針の内容	プロセス		測定指標		構造	アウトカム								
	管理者/相談員	番号	評価項目	評価の理由・根拠		高知県連携	調査関連	体制	患者や家族および市民	必要条件	分野別アウトカム	最終アウトカム		
1. 病院全体として、患者や家族等の不安に適切に対応できる体制を整備する														
院内教育・スクリーニング体制の整備	P14 (6) 自施設の診療従事者等に、がん対策の目的や意義、がん患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保していること。なお、自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講していることが望ましい。	管理者	★新1	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、院内スタッフに対し、以下の内容について学ぶ機会を年1回以上提供している。 ・がん対策の目的や意義 ・がんの療養過程で患者や家族に起こりうる困りごとや課題 ・患者や家族が利用できる制度や関係機関との連携体制 ・自施設で提供している診療・患者支援の体制 ・がん相談支援センターの役割や業務(がん相談支援の基本姿勢「Core Values」を含む)								(患者や家族等から見て)適切に対応できる医療者が増える 治療や治療以外の心配・不安について表出しやすくなる	必要なとき相談できたと感じる	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上
がん相談支援センターの周知	P14 (6) 自施設の診療従事者等に、がん対策の目的や意義、がん患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保していること。なお、自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講していることが望ましい。 P15 ウ 院内の見やすい場所にごがん相談支援センターについて分かりやすく掲示すること。 エ 地域の住民や医療・在宅・介護福祉等の関係機関に対し、がん相談支援センターに関する広報を行うこと。また、自施設に通院していない者からの相談にも対応すること。	管理者	★7	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、以下の情報が患者・家族・市民に伝わるよう、対外的に明示するとともに、院内スタッフや地域の関係機関に対しても周知している。 ・自施設の患者以外の相談者にも対応していること ・相談は無料であること ・匿名での相談も可能であること ・本人の同意のないところで、相談内容が第三者(担当医含む)に伝わることはないこと ・整備指針に関するQ&A(2022年9月22日発事務連絡)で「がん相談支援センターの業務」として示されている相談内容に対応していること			がん相談支援センターについてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	世論調査(仮)				がん相談支援センターの役割を知っている人が増える		
がん相談支援センターの周知	P15 ウ 院内の見やすい場所にごがん相談支援センターについて分かりやすく掲示すること。 エ 地域の住民や医療・在宅・介護福祉等の関係機関に対し、がん相談支援センターに関する広報を行うこと。また、自施設に通院していない者からの相談にも対応すること。	管理者	★10	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん患者・家族に対し、外来初診時から治療開始までを目処に、必ず一度はがん相談支援センターを案内するよう院内体制を整備している。 (例)リーフレットや案内カードを渡してセンターを案内するよう、各診療科長を通じて全てのがん診療を担当する医師に依頼する等			がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合	患者体験調査 小児患者体験調査	相談支援センターに立ち寄ったがん患者数/院内がん登録患者数					
ピアサポート活動支援	P4 ④ 地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議を行い、拠点病院等の間で情報共有や役割分担を含む連携体制を整備すること。 P10 ク 都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピアサポート(注10)の質の向上に対する支援等に取り組むこと。	管理者	新6	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、行政や都道府県協議会と協働し、ピアサポート(患者サロン・患者会・ピアサポーター等)活動への支援を行っている。 (例)ピアサポートの増えへの支援(運営支援にあたる人材の確保、周知広報) ・ピアサポーター養成への協力(講師派遣) ・ピアサポートについて情報提供できる体制の整備			ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	患者体験調査				患者同士の交流が可能になる		
地域社会への広報活動	P16 ⑥ がん教育について、当該がん医療圏における学校や職場より依頼があった際には、外部講師として診療従事者を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めること。	相談員	新8	地域で行われるがん教育等の活動に協力している(講師協力や資料作成等)								情報啓発の場が確保される		
地域社会への広報活動	P16 ③ 地域を対象として、緩和ケアやがん教育、患者向け一般向けのガイドラインの活用等に関する普及啓発に努めること。 ⑥ がん教育について、当該がん医療圏における学校や職場より依頼があった際には、外部講師として診療従事者を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めること。	相談員	新9	地域の図書館等の拠点病院以外の場所で、がんの正しい理解や支援に関する情報を入手できる場作りや活動に協力している										
地域社会への広報活動	P16 ③ 地域を対象として、緩和ケアやがん教育、患者向け一般向けのガイドラインの活用等に関する普及啓発に努めること。	管理者	48	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、新しい話題を含めた講演会(患者・家族・市民向け)を実施する機会を設けている			患者や市民向けの講演会の数	【利用者調査】 「新しい情報が得られた」 「理解が深まった」との回答						
2. がん相談支援センターとして、質の高い相談支援を提供できる体制を整備する														
環境整備	P13 ① 患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備することが望ましい。 P14 必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用すること。	管理者	新3	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、相談支援センターの運営上必要となる環境や資材の整備に取り組んでいる。 (例)相談室、相談専用電話、オンライン環境 ・患者向け診療ガイドラインの解説などの書籍 ・相談対応モニタリングを実施するための録音環境等					プライバシーの保てる部屋数 直通電話・録音環境の有無 オンライン環境 患者向け診療ガイドラインの解説などの書籍数			公平・中立な相談の場が確保される 意思決定に必要な情報が得られる 問題や困りごとの原因が減る、解決法・対処法が増える	不安・疑問を解消・軽減できる 患者中心の(その人なりの)意思決定ができる	
環境整備	P15 また、コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保すること。	管理者	5	病院管理者は、外国人や障害の関係でコミュニケーションに配慮が必要な患者に対応できる体制を病院として整え、それらの患者ががん相談支援センターを利用した場合に、相談員が対応(または既存の院内体制と連携・協働して対応)できるようにしている				コミュニケーションに配慮が必要な患者(外国人・障がい者等)に対応できる体制						
人員配置・人材育成	P15 ② 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、がん相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努めること。	相談員	15	相談員は、国立がん研究センターや地域開催の相談員研修を定期的に受講し、知識や情報を更新している。			研修参加回数							
人員配置・人材育成	P14 4 人材育成等 (1) 自施設において、2に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や育成に積極的に取り組むこと。特に、診療の質を高めるために必要な、各種学会が認定する資格等の取得についても積極的に支援すること。また、広告可能な資格を有する者のがん診療への配置状況について積極的に公表すること。 (7) 院内の看護師を対象として、がん看護に関する総合的な研修を定期的実施すること。また、他の診療従事者についても、各々の専門に応じた研修を定期的実施するまたは、他の施設等で実施されている研修に参加させること。	管理者	★19	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、継続的な学習の機会を業務の一環とみなし、研修参加や各種認定資格(※)取得を積極的に支援している。(参加・取得の奨励、必要経費の支出、不在時職務代替者の調整等) (※例)がん看護専門看護師、認定看護師、認定医療ソーシャルワーカー、認定がん専門相談員等			研修参加回数	現況報告別紙13 (相談支援センター体制)						
人員配置・人材育成	P15 ① 国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人ずつ配置すること。なお、当該相談支援に携わる者のうち1名は、社会福祉士であることが望ましい。 ⑥ 患者からの相談に対し、必要に応じて速やかに院内の診療従事者が対応できるように、病院長もしくはそれに準じる者が統括するなど、がん相談支援センターと院内の診療従事者が協働する体制を整備すること。	管理者	40	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの専従・専任相談員として複数の職種(看護職・福祉職・心理職等)を配置している。			専従・専任相談員の人数と職種	現況報告別紙13 (相談支援センター体制)						

実施	プロセス	測定指標		構造	アウトカム							
		測定指標	調査関連		患者や家族および市民	分野別アウトカム	最終アウトカム					
質の管理	<p>① 地域の実状に応じて、以下のアからケを参考に医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知すること。</p> <p>オ 分野別に希少がん・難治がんの対応を行う体制</p> <p>カ 小児がんの長期フォローアップを行う体制</p> <p>キ AYA世代(注1)のがんの支援体制</p> <p>ク がん・生殖医療(別途実施されている「小児・AYA世代のがん患者等の妊産性温存療法研究促進事業」におけるがん・生殖医療ネットワークと協働して実施)</p> <p>ケ がんゲノム医療</p> <p>④ 地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議を行い、拠点病院等の間で情報共有や役割分担を含む連携体制を整備すること。</p>	管理者/相談員	★新11	相談員は、症例が少なく知識・対応経験が蓄積されにくい相談(※)について、都道府県協議会や相談支援部会等の場で課題を協議し、協力体制の構築(病院間での役割分担や連携を含む)を行っている。 <p>※例)小児・AYA、妊産性、希少がん、ゲノム医療に関する相談等</p>								
		相談員	16	院内の多職種カンファレンス・勉強会・研修会・事例検討会・会議等に定期的に参加している			内容や回数など					
		相談員	17	都道府県やブロックで開催されている相談員研修、地域相談支援フォーラム、事例検討会等に定期的に参加している			研修参加回数					
		相談員	18	がん専門相談員は、基本計画や整備指針等で拠点病院やがん相談支援センターに新たに求められている事項や業務(例:ゲノム医療・希少がん・AYA・生殖機能等)に関連する研修(エラーニング・集合研修)に参加している			研修参加回数					
		管理者	21	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センター内に相談員指導者研修を修了した者を配置している			指導者研修終了者の配置人数		相談員バックアップ体制の有無			
		管理者	22	【都道府県拠点】 都道府県内で相談員研修を定期的に企画・開催している			県内相談員に対する研修提供数・参加人数					
		相談員	★34	相談員は、相談支援に活用する情報の検討・評価を、がん相談支援センター内で定期的に行い、確かな情報を提供できる体制を整えている。 <p>(例) ・相談対応時に活用する情報や情報源のほか、図書、小冊子、リーフレットについても、がん相談支援センター内で内容を精査・評価する ・がん相談支援センター内で検討・承認された情報を活用して、相談対応する</p>			患者体験調査		相談対応に活用する情報や情報源を評価する場、評価基準の有無			
		相談員	36	相談員は、個人情報取り扱い(守秘義務・相談記録管理)や相談員の役割・業務についてまとめたがん相談部門のマニュアルを作成し、相談員教育に活用するとともに、年1回以上の頻度で更新している。					マニュアルの有無 更新頻度			
		相談員	37	がん相談支援センターは、Core Valuesに示されている内容を中心とした相談員の役割(例:公平・中立的姿勢、正確な情報に基づく支援、医療者との関係強化等)や業務をがん相談部門のマニュアルに明記し、相談員教育(新任者への引継ぎ、相談対応のモニタリングでの議論の観点等)に活用している					マニュアルの有無 マニュアルの記載内容			
		相談員	38	がん相談支援センターは、院内他部署(例:緩和ケアチーム等)や地域の関係機関とのカンファレンスを実施している			内容や回数など					
		管理者	★39	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの相談員をバックアップするための多職種連携・協働体制を整備している。 <p>(例) ・相談員が相談対応で困ったときに助言を求められる担当者を決めるよう各診療科・部門に指示する ・がん相談支援センターの業務関連で発生する事務を担当する者を、専従・専任相談員とは別に配置する等</p>					相談員バックアップ体制の有無			
		相談員	47	がん診療連携拠点病院相談支援センターのMLを活用している					MLに登録しているだけでなく、情報を活用することが出来ているか			
		質の保証	相談員	23	がん相談支援センター内でカンファレンスや事例検討会を開催し、課題の共有や解決策の検討を行っている							
			相談員	27	相談員からの相談内容や対応を分析し、改善しうる課題について検討している							
			相談員	28	相談員は、がん相談支援センター内で検討された課題や解決策を、必要に応じて病院管理者等に報告し、がん相談支援センターや病院全体としての質の向上につなげている。					フィードバック内容を自施設の相談支援の質の向上に活用する仕組みの有無		
管理者	★31		病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターで提供された支援に対する利用者からのフィードバックを得るための体制を整備している。 <p>(例)センター利用者への満足度調査の実施、病院として実施する患者満足度調査にがん相談支援センターの評価を含める等</p>			フィードバックを得る体制		現況報告別紙13(相談支援センター体制)				
管理者	33		病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センターの体制や業務状況等について外部から評価を受ける機会を設けている(例:認定がん相談支援センターの認定取得、病院機能評価、他施設のがん相談支援センターとの間での相互評価等)					他者から評価される仕組み、体制の有無				
相談員	41		相談員は、がん相談支援センター内での定期的(※)な相談対応モニタリングを通じて、課題共有と解決策の検討を行っている。 <p>また、モニタリングの際は、がん相談対応評価表、録音した自分自身の相談対応(ロールプレイ)の音声を聞いている。</p> <p>※全ての相談員(兼任含む)が年1回程度の頻度で実施</p>					モニタリング実施回数				
管理者	42		病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センターの相談員が相談対応のモニタリング(OA)を行うために必要となる体制を整備している(例:病院全体として電話の内容は録音する方針とする等)					録音機器の有無				

プロセス				資料4-6	
拠点病院およびがん相談支援センター					
必要な条件・状態	管理者/ 相談員	番号	評価項目	評点	評価の理由・根拠
1. 病院全体として、患者や家族等の不安に適切に対応できる体制を整備する					
院内教育・スクリーニング体制の整備	管理者	★新1	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、院内スタッフに対し、以下の内容について学ぶ機会を年1回以上提供している。 ・がん対策の目的や意義 ・がんの療養過程で患者や家族に起こりうる困りごとや課題 ・患者や家族が利用できる制度や関係機関との連携体制 ・自施設で提供している診療・患者支援の体制 ・がん相談支援センターの役割や業務（がん相談支援の基本姿勢「Core Values」を含む）		
	管理者	★11	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、苦痛や課題を抱えている患者・家族を把握し、適切な部門・専門職につなぐための院内体制を整備している。 （例）初診時や入院時にスクリーニングを行い、苦痛や課題の内容に応じて適切な部門・専門職につなぐしくみがある等		
がん相談支援センターの周知	管理者	★7	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、以下の情報が患者・家族・市民に伝わるよう、対外的に明示するとともに、院内スタッフや地域の関係機関に対しても周知している。 ・自施設の患者以外の相談者にも対応していること ・相談は無料であること ・匿名での相談も可能であること ・本人の同意のないところで、相談内容が第三者（担当医含む）に伝わることはないこと ・整備指針に関するQ & A（2022年9月22日発事務連絡）で「がん相談支援センターの業務」として示されている相談内容に対応していること		
	管理者	★10	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん患者・家族に対し、外来初診時から治療開始までを目処に、必ず一度はがん相談支援センターを案内するよう院内体制を整備している。 （例）リーフレットや案内カードを渡しセンターを案内するよう、各診療科長を通じて全てのがん診療を担当する医師に依頼する等		
ピアサポート活動支援	管理者	新6	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、行政や都道府県協議会と協働し、ピアサポート（患者サロン・患者会・ピアサポーター等）活動への支援を行っている。 （例）ピアサポートの場づくりへの支援（運営支援にあたる人材の確保、周知広報） ・ピアサポーター養成への協力（講師派遣） ・ピアサポートについて情報提供できる体制の整備		
地域社会への広報活動	管理者	48	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、新しい話題を含めた講演会（患者・家族・市民向け）を実施する機会を設けている		
2. がん相談支援センターとして、質の高い相談支援を提供できる体制を整備する					
環境整備	管理者	新3	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、相談支援センターの運営上必要となる環境や資材の整備に取り組んでいる。 （例）・相談室、相談専用電話、オンライン環境 ・患者向け診療ガイドラインの解説などの書籍 ・相談対応モニタリングを実施するための録音環境等		
	管理者	5	病院管理者は、外国人や障害の関係でコミュニケーションに配慮が必要な患者に対応できる体制を病院として整え、それらの患者ががん相談支援センターを利用した場合に、相談員が対応（または既存の院内体制と連携・協働して対応）できるようにしている		
人員配置・人材育成	管理者	★19	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、継続的な学習の機会を業務の一環とみなし、研修参加や各種認定資格（※）取得を積極的に支援している。（参加・取得の奨励、必要経費の支出、不在時職務代替者の調整等） （※例）がん看護専門看護師、認定看護師、認定医療ソーシャルワーカー、認定がん専門相談員等		
	管理者	40	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの専従・専任相談員として複数の職種（看護職・福祉職・心理職等）を配置している。		
質の管理	管理者	21	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センター内に相談員指導者研修を修了した者を配置している		
	管理者	22	【都道府県拠点】 都道府県内で相談員研修を定期的に企画・開催している		
	管理者	★39	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの相談員をバックアップするための多職種連携・協働体制を整備している。 （例） ・相談員が相談対応で困ったときに助言を求められる担当者を定めるよう各診療科・部門に指示する ・がん相談支援センターの業務関連で発生する事務を担当する者を、専従・専任相談員とは別に配置する等		
質の保証	管理者	★31	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターで提供された支援に対する利用者からのフィードバックを得るための体制を整備している。 （例）センター利用者への満足度調査の実施、病院として実施する患者満足度調査にがん相談支援センターの評価を含める等		
	管理者	33	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センターの体制や業務状況等について外部から評価を受ける機会を設けている（例：認定がん相談支援センターの認定取得、病院機能評価、他施設のがん相談支援センターとの間での相互評価等）		
	管理者	42	病院管理者やがん相談支援センターの管理者は、がん相談支援センターの相談員が相談対応のモニタリング（QA）を行うために必要となる体制を整備している（例：病院全体として電話の内容は録音する方針とする等）		